

辺野古新基地建設に向けたブイ設置強行に抗議し、工事中止を求める

2014年8月15日

日本平和委員会

防衛省・沖縄防衛局が辺野古新基地建設に向けて沖合へのブイを設置を強行したことに、断固として抗議する。これは、海底ボーリング調査に対する住民の抗議行動を排除するためのものであり、断じて認められない。

この基地建設は、昨年1月の41全市町村長などが連名で安倍首相に提出した「建白書」や、基地建設に断固反対する稲嶺市長が圧勝した今年1月の名護市長選挙、そして県民の圧倒的多数が基地建設に反対している直近の世論調査など、県民の意思をことごとく無視して強行しようとするものである。この強行に、県民が抗議するのは当然である。

ところがいま安倍政権は、この県民の抗議行動に対して、海上保安庁、警察・機動隊を配置し、権力総がかりの弾圧体制を強化している。今回のブイ設置は、そのために日米地位協定の趣旨にも反して、立ち入り禁止区域を大幅に拡大するものである。また、絶滅危惧種であるジュゴンの生息環境への影響、生物の多様性を有する生態系の喪失、地域の自然環境の損失等をもたらす危険がある。

私たちは、このような暴挙を許さず、辺野古新基地建設を断念を求める国民世論を大きく高めるため、「沖縄にこれ以上基地は作らせません」と訴える意見広告運動への協力を改めて呼びかける。

また、辺野古現地での抗議行動への参加を呼びかけるとともに、9月7日の名護市議選で稲嶺市長与党の多数議席を守り、11月の県知事選挙で基地の県内移設に反対する知事を誕生させることで安倍内閣の暴挙を打ち破るため、全力をあげる決意を表明するものである。